



編集後記

今号の特集は「ラテンアメリカのテレコム産業」です。テレコム産業の民営化が各国で実施されたのは1990年前後。それから十年以上の年月を経て、この産業がどのように変わったのか、メキシコ、ブラジル、チリ、ペルーの4カ国について検証を試みました。この間の市場におけるプレーヤーの入れ替わりはめまぐるしく、当初優勢であった米国勢は姿を消し、現在は、スペインのテレフォニカとメキシコのテルメックス/アメリカ・モビルが市場を席卷する二大勢力となっています。厳しい企業間競争を推進力にして、各国においては電信網の拡充が急ピッチで進みました。そのことは民営化の最大の成果といえましょう。今後も競争環境は維持されるのか、大陸規模で進行する寡占化の行方を見守りたいと思います。

私事で恐縮ですが、9月15日メキシコ・ナショナル・デーの日、盛況の愛地球博に行ってきました。職業柄、足が向くのはもっぱらラテンアメリカ各国のパビリオン。めざすアンデス共同館の入り口でパンフレットを手渡されました。見るとタイトルに「ベネズエラ革命の進展」。お祭り騒ぎ、娯楽満載の雰囲気の中で異彩を放ち、「チャベスも芸が細かい」と感心したものでした。論考の一つでそのベネズエラ革命(論考ではボリバル革命)の経済政策を分析しています。石油に全面的に依存した革命がどこまで持続可能なものなのか、大変興味深いところです。

フォーラムをお願いしたサンパウロ・カトリカ大学のシルビオ・ミヤザキ先生は、数年前にアジア経済研究所に客員研究員として籍を置かれています。この8月に「自由貿易協定の国際比較」という調査テーマを携え、数年ぶりに来日されました。約1カ月の日本での調査の後に書かれたフォーラムからは、政治に翻弄されるメルコスルへのミヤザキ先生の失望のため息が聞こえてくるような気がします。

(星野妙子)

インフォメーション

➡ 最近のアジア経済研究所の出版物

- ※ 宇佐見耕一編『新興工業国の社会福祉 最低生活保障と家族福祉』アジア経済研究所(近刊)
- ※ 清水達也「ラテンアメリカ小農のグローバリゼーション 非伝統的輸出農産物の拡大」(児玉由佳編『グローバリゼーションと農村社会・経済構造の変容』調査研究報告書 地域研究センター 2004-IV-14 v+79 ページ, 2005年, 19-34 ページ所収)
- ※ *Family Business in Developing Countries, International Workshop Proceedings*, Area Studies Center, Institute of Developing Economies, 2004, iv+131pp.
- ※ Special Issue : Comparative Study of Social Security System in Asia and Latin America, *Developing Economies*, Vol. XLII, No.2, 2004. (アルゼンチン, ブラジル, キューバ, メキシコに関する論文を収録)
- ※ Tatsuya Shimizu, *Family Business in Peru : Survival and Expansion under the Liberalization*, Discussion Paper No.7, Institute of Developing Economies, 2004, 38pp.
- ※ Taeko Hoshino, *Family Business in Mexico : The Response to Managerial Constraints and to Succession*, Discussion Paper No.12, Institute of Developing Economies, 2004, 40pp.
- ※ 星野妙子編『ファミリービジネスの経営と革新 アジアとラテンアメリカ』アジア経済研究所, 2004年, vi+422 ページ。

編集委員会：上谷直克，宇佐見耕一，加藤真穂，北野浩一，坂口安紀，佐々木茂子，清水達也，星野妙子，村井友子，米村明夫

ラテンアメリカ・レポート

Vol.22 No.2

2005年11月20日発行 ©
定価 840円(本体価格 800円)

アジア経済研究所

独立行政法人日本貿易振興機構

編集 『ラテンアメリカ・レポート』編集委員会

発行 研究支援部

〒261-8545 千葉市美浜区若葉3-2-2

TEL 043-299-9735 FAX 043-299-9736

E-mail : syuppan@ide.go.jp